

2019 年度水辺の自然再生共同シンポジウム

講演風景(写真)と総合討論

10月26日に東京都錦糸町で開催、95名が参加した。基調講演3題、一般講演4題、ポスター講演14題、計23題の提供と総合討論が行われた。

i) テーマ：里山・里地-豊かな自然の保全と活用

侵略的外来種防除による保全と世界農業遺産「大崎耕土」の推進

期 日 2019年10月26日(土) 10:00~17:15

会 場： 東京環境工科専門学校(東京都墨田区江東橋;最寄駅;JR・半蔵門線、錦糸町)

主 催： 水辺の自然再生共同シンポジウム実行委員会

(NPO法人シナイモツゴ郷の会、旧品井沼周辺ため池群自然再生協議会、全国ブラックバス防除市民ネットワーク、ナマズのがっこう)



第1部 講演 豊かな自然の復元と保全・活用

守ろう！世界農業遺産「大崎耕土」豊かな自然

-積極的活用と侵略的外来種の防除による里山・里地生態系の保全

ii)期日：2019年10月26日（土）10：00～17：15

iii)会場：東京環境工科専門学校（東京都墨田区江東橋；最寄駅；JR・半蔵門線、錦糸町）

iv)主催・共催：NPO法人シナイモツゴ郷の会、全国ブラックバス防除市民ネットワーク、旧品井沼周辺ため池群自然再生協議会、ナマズのがっこう

v)後援：大崎市、大崎市教育委員会、JAみどりの、TOYO TIRE グループ環境保護基金

vi)次第

第1部 講演 豊かな自然の復元と保全・活用 10：15～12：15

座長 根元信一・高橋清孝（シナイモツゴ郷の会）

(1) 復元と保全の戦略

①モツゴ類のルーツと保全

川瀬成吾（大阪経済法科大学）30分

②オオクチバス防除によるゼニタナゴの復元

藤本泰文（宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団） 30分

(2) 豊かな自然の活用

①世界農業遺産がめざす豊かな自然の保全と活用－現状と課題

渡辺 真（大崎市産業経済部世界農業遺産推進課） 30分

(3) 自由討論 30分

第2部 ポスター発表 12：30～14：00

(1) 地域ぐるみの保全活動-生き物ブランド米で豊かな自然を守り続ける農業者の活動

①シナイモツゴ郷の米でシナイモツゴを守る

：吉田千代志（シナイモツゴ郷の米づくり手の会）

(2) 水辺環境の変化と生き物たちの盛衰

①消えた天然沼-品井沼の明治大正期の漁業と現在の魚

三浦仁一（シナイモツゴ郷の会）

②手賀沼におけるニホンウナギの盛衰

半沢裕子（手賀沼水生研）

(3) 豊かな自然を守る新たな技術と活動

①自動給餌機を使用しないウチダザリガニ用連続捕獲装置の開発

：高橋清孝・長谷川政智・根元信一（シナイモツゴ郷の会）

②アメリカザリガニの繁殖抑制技術の開発

：長谷川政智・高橋清孝（シナイモツゴ郷の会）

③アメリカザリガニの有効活用、中華料理店のメニュー化と加工品開発

：坂本 啓・内藤朝陽（シナイモツゴ郷の会）

④ニッポンバラタナゴ生息池におけるアメリカザリガニ防除

：川瀬成吾（大阪経済法科大学）・ECO～る∞KEIHO

⑤ため池池干しによるブラックバス駆除

：三塚牧夫（ナマズのがっこう）

⑥ため池事故防止 安全ネットの改良

：根元信一（東北興商）

(4) 自由課題（一般募集）

①長野市ため池群におけるシナイモツゴの分布調査とモニタリングサイトの選別

中野 繭^{1, 2}・中島法子¹・小林和子¹・古賀和人^{1, 3}

（¹ぼんすけ育成会, ²信州大学理学部, ³長野市立戸隠地質化石博物館）

②特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」の染料植物としてのポテンシャル

小村健太朗、他（亀成川を愛する会）

③琵琶湖流入河川に生息するタンカイザリガニの分布および拡散状況

曾我部共生・北野輔（びわ湖サテライトエリア研究会）

④アメリカザリガニを人気者にしない、これからの普及啓発活動

佐藤方博（認定NPO法人 生態工房）

⑤アメリカザリガニを防除したため池でゼニタナゴが復活

秦 康之（シナイモツゴ郷の会）



第2部 ポスター発表

第3部 講演 水辺の侵略的外来種の防除と成果 14:00~16:30

進行 長谷川政智(シナイモツゴ郷の会)

(1) 国家戦略 侵略的外来種防除の国家戦略と現況

北橋義明(環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室室長) 40分

(2) 侵略的外来種の防除と効果

①ザリガニ類捕獲ツールの開発と防除戦略:

高橋清孝・長谷川政智(シナイモツゴ郷の会) 30分

休憩 10分

②洞爺湖におけるウチダザリガニの防除と効果

室田欣弘(UWクリーンレイク洞爺湖) 30分

③ここがポイント!自然が再生する「かいぼり」のはなし

片岡友美(生態工房) 30分

第4部 総合討論 16:30~17:10

座長 半沢裕子(手賀沼水生研)・高橋清孝(シナイモツゴ郷の会)



第3部 講演 水辺の侵略的外来種の防除と成果

総合討論

Q:質問、O ; 意見、A:回答

Q・O: 大崎市で池干しをしているが、バス以外にもコイの異常な繁殖や貯水量の減少などに悩まされている。特に、最近は冬季に少雨になることが多いので、農業用ため池では池干しする時期などを選ぶ必要がある。

Q: 井之頭公園池ではアメリカザリガニがいるのに水草は減らないのか

A: ザリガニは増えたが、水草も増えた。 ザリガニ駆除は効果は見えにくいですが、継続して実施している。連続捕獲装置 30 個とカゴ 100 個以上で捕獲を続けている。

O: 井之頭公園池の池干しでは干上げなどの駆除を徹底的にやったという意味ですばらしかった。

Q: 池干し時の消石灰の散布には動噴が効果的だった。以前は池干しで捕獲した魚を食材にした。今後、海産魚の漁獲が減少すれば利用される可能性があると思われ、資源はどうなっているのか。

A1: 暖水性魚類が増加し、冷水性の魚類が減少している。結果として全体的に減少する可能性はある。

A: 環境負荷軽減の観点から魚食は効率がいいとされている。日本は国土が狭い一方、領海は世界有数の広さであり、どうしても海に頼らざるを得ないと思うので、国際会議などでもしっかり資源を守り保つことが大事と考えている。命を守るということについて、個体として目の前の命を大事にすることと、生物多様性を守る中で命を奪わざるを得ないことは、違う話として考えるべき。かいぼりなどでは多くの命が失われるが、意味があってやっていること。切り分けながら、何のためにやっているか常に考えながら、無駄にしているのではないことをうまく伝えたい。

Q: アメリカザリガニは特定外来種ではないので、防除のための支援を得ることが困難である。アメリカザリガニが侵入すると 4 年くらいで水草がなくなり、レッドリストの水生昆虫が全滅する等、影響は深刻である。特定外来種指定はできないのでしょうか？

A: アメリカザリガニは現状の法律の枠組みでは困難。枠組みはの直しは能であるが、国際的な問題も含んでおり複雑である。希少種や普通種を含む在来種の生物多様性を保全するための予算も多々あるので活用してもらえればと思う。

Q: 環境に対する関心が低くなっているが、たくさんの人たちに関心をもってもらうため種々の環境教育が必要。池干し後に戻るものがあるが、戻らない生き物もいる。徹底した池干しが他生物に与える影響を調べる必要があるのではないか。ヘドロがたまっている池の水は、水位低下や池干しにより透明化するのか？

A: 透明化については場所により状況が違うので一概には言えない。しかし、バス繁殖池に水生昆虫などがほとんどいないのは確かで一気に全部干す方法をとっている。また、ため池は定期的に干してヘドロを流すという目的がある。ただ、担い手がすくないため、池干しの間隔が長くなっていて、中がどうなっているか誰も知らない。管理がさらになおざりになることを危惧している。もうひとつ、今回の豪雨で感じたが、ため池には一時的な貯留効果もある。稲作期間のあと水位を下げる管理と生きものの管理を目指して、池干しをもう少し続けたい。

座長: これで総合討論を終了します。台風 19 号による水害被害の中でシンポジウムを企画されたシナイモツゴ郷の会と大崎市に感謝します。